

令和5年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	23003		事業名	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業			
	事業手法	☒ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助等 ☐ その他()						
	施策体系	施策の大綱	02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実			予算科目	会計	01:一般会計
		基本施策	03:高齢者の地域生活支援の充実				款	03:民生費
		施策の方向	02:介護予防の推進				項	01:社会福祉費
		重点プロジェクト	-				目	03:老人福祉費
事業期間	R 5 年度 ~ R - 年度		主な根拠法令等	高齢者の医療の確保に関する法律				

評価分類	A1
------	----

担当部署	
部	市民文化部
課	市民課 医療年金G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	持続可能な高齢者施策や介護保険制度の推進が全国的な課題となっており、本市においても、高齢者医療費や介護給付費の増加抑制を図る必要がある。国の法改正により、市町村が高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施するための体制が整えられ、令和6年度までに全市町村での展開が求められている。	後期高齢者医療制度被保険者及び複数の慢性疾患の罹患に加え、フレイル状態になりやすい高齢者 ※フレイルとは、健康と要介護の中間に位置し、加齢とともに心身の活力が低下し、要介護状態になる危険性が高くなった状態。	高齢者の心身の多様な課題に対するきめ細やかな支援を実現するため、高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施し、疾病予防・重症化予防、生活機能の改善を図り、健康寿命の延伸を目指す。	保健師等の医療専門職が医療・健診・介護情報等を活用し、健康課題を把握するとともに、支援対象者を抽出し、低栄養防止・重症化予防、重複投与者等への相談・指導、健康状態不明者の把握等の個別的支援を実施する。また、通いの場等を通じたフレイル予防の普及啓発や健康相談・健康教育及びフレイル状態にある高齢者の把握・保健指導を実施するとともに、一体的に展開するため、庁内関係部署や関係団体との連携を図る。

③ 事業の実施状況 (P・D)	年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		
	事業計画				○健康課題の分析・企画・調整 ○訪問指導等の個別支援(ハイリスクアプローチ) ○フレイル予防の普及啓発、健康教育・健康相談(ポピュレーションアプローチ)		○健康課題の分析・企画・調整 ○訪問指導等の個別支援(ハイリスクアプローチ) ○フレイル予防の普及啓発、健康教育・健康相談(ポピュレーションアプローチ)		○健康課題の分析・企画・調整 ○訪問指導等の個別支援(ハイリスクアプローチ) ○フレイル予防の普及啓発、健康教育・健康相談(ポピュレーションアプローチ)		
	活動実績 (計画通り実施できたか)				KDB等のデータを活用し健康課題を把握するとともに、健康課題を抱える対象者を抽出し、個別支援を実施した。また、医療専門職が健康教育等を実施するなど、各関係部署と連携しフレイル予防の普及啓発に取り組んだ。 ハイリスクアプローチ:介入者数 60人 ポピュレーションアプローチ:実施数 53回、参加者数 延べ1,014人 庁内連携会議(ワーキング含む):24回						
	計画額	事業費			7,000千円		6,900千円		6,900千円		
			国・県支出金								
			地方債								
			その他		6,930千円		6,830千円		6,830千円		
	決算額	事業費			5,277千円						
			国・県支出金								
			地方債		5,277千円						
その他											
一般財源		70千円		0千円		70千円		70千円			
①期間内計画額(R4-7)		20,800千円		②期間外計画額(R8-)		0千円		①+②総計画額		20,800千円	

(令和5年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	5,883千円
次年度への繰越額	0千円

	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	フレイル予防の健康教育・健康相談の実施回数	医療専門職によるフレイル予防の普及啓発、運動・栄養・口腔等の健康教育・健康相談の実施回数	活動	回	計画値 実績値	 -----	30 53	40	50
	個別支援実施者数	ハイレスクアプローチにおいて保健師、管理栄養士等の医療専門職が訪問等で個別指導を実施した人数	活動	人	計画値 実績値	 -----	25 39	35	50
	個別支援実施者の改善状況	ハイレスクアプローチの個別指導を実施した対象者のうち改善がみられた人数	成果	人	計画値 実績値	 -----	10 11	20	30

⑤ 成果 (C)		事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
	A	医療専門職が健康状態不明者や重複多剤服用者等のハイレスク者に対し、訪問等の個別支援を行うことにより、必要な医療や介護等のサービスに繋げ、重症化を予防するとともに生活機能の改善を図ることができた。 また、庁内関係部署と連携し、あらゆる機会を通じて健康教育やフレイル予防の普及啓発に努め、高齢者自身がフレイル予防に取り組む意識づけを促すことができた。
	十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
後期高齢者医療制度被保険者及び複数の慢性疾患の罹患に加え、フレイル状態になりやすい高齢者 ※フレイルとは、健康と要介護の中間に位置し、加齢とともに心身の活力が低下し、要介護状態になる危険性が高くなった状態。	高齢者の心身の多様な課題に対するきめ細やかな支援を実現するため、高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施し、疾病予防・重症化予防、生活機能の改善を図り、健康寿命の延伸を目指す。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	地域ごとの課題や高齢者一人ひとりの健康課題に応じた支援を効果的に行うため、KDB等の地域別データの利活用を図るとともに、高齢者や地域を支える関係団体との連携強化に取り組む必要がある。

⑦ 事業 の 展 開 (A)	方向性	
	継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容	
	令和6年度で対応する(した)もの 庁内関係部署間の課を超えての事業間連携を行うとともに、医師会、歯科医師会、薬剤師会等の医療関係団体や地域包括支援センター等と情報共有や相談、助言を受け、重症化予防事業等の高齢者の健康支援において連携強化を進めていく。	令和7年度以降で対応するもの 関係部署や関係団体との連携強化を図るとともに、高齢者が自らの健康状態に関心を持ち、フレイル予防等に取り組むための積極的な情報発信や意識啓発を検討していく。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定		A		
事業展開		継続(現状維持)		

【履歴】

1次評価者	市民文化部 市民課 医療年金GL 福井 雅代
最終評価者	市民文化部 市民課長 新海 理恵